



喜多埜

古事記一三〇〇年

本年は、奈良時代の文人、太安萬侶が第四十三代 元明天皇に古事記三巻を献上してからちょうど一三〇〇年になります。

古事記はいうまでもなく、日本最古の物語であり、時代を問わず、日本の根幹をなす書物として重要視されてきました。

この古事記は、第四十代 天武天皇が舎人の稗田阿禮に勅して、『帝紀』『旧辞』を暗誦させた事に始まります。

古事記の序文には、「最近歴史の改竄が多く、このままでは、本来の日本の姿が分からなくなってしまうので、暗記が得意な稗田阿禮に本来の日本の成り立ちを誦習させた。」とあり、日本の成り立ちに関し、本来の姿が損なわれている事に危惧した天武天皇が、本当の姿を後世に伝える為に、口伝で伝えた事が分かります。

その後、元明天皇の御代になって、太安萬侶に、稗田阿禮の暗誦した『帝紀』『旧辞』を後世に残す為に文書化をお命じになられ、四ヶ月かけて完成させたものが古事記です。

古事記が献上された日は和銅五年(七一二月)二十八日となっていますが、この時代は旧暦であり、現代に直しますと、今月十九日が旧暦の一月二十八日になり、ちょうど一三〇〇年目となります。

戦後、日本は歴史教育から国風という概念を外した事により、古事記などの伝える「日本の姿」を公に学ぶ機会が無くなってしまいました。イギリスの歴史学者、アーノルド・

トインビーは「十二、三歳までにその民族の神話を学ばなかった民族は例外なく滅んでいる」と言っています。この現代では日本人の国風は風前の灯火なのかもしれません。

古事記には稽古照今という言葉があります。これは「古を鑑み、今に照らす」の意味です。心に一本の筋道を通す意味でも、この機会に、自国の本来の姿を、まっすぐ見つめ直されてみては如何でしょうか。

厄年の御祈祷

当社では厄年の厄除け祈祷を受け付けております。左表の通り各年にお生まれの方は厄年にあたられます。当社での御祈祷はご予約ですので、事前にお電話等でご予約下さい。

男 性		
前厄	本厄	後厄
昭和 64年生(生) 24歳(小厄)	昭和 63年生(生) 25歳(中厄)	昭和 62年生(生) 26歳(小厄)
昭和 47年生(子) 44歳(中厄)	昭和 46年生(生) 42歳(大厄)	昭和 45年生(生) 43歳(中厄)
昭和 28年生(生) 60歳(小厄)	昭和 27年生(生) 61歳(中厄)	昭和 26年生(生) 62歳(小厄)

女 性		
前厄	本厄	後厄
平成 7年生(生) 18歳(小厄)	平成 6年生(生) 19歳(中厄)	平成 5年生(生) 20歳(小厄)
昭和 56年生(生) 32歳(中厄)	昭和 55年生(生) 33歳(大厄)	昭和 54年生(生) 34歳(中厄)
昭和 52年生(生) 36歳(小厄)	昭和 51年生(生) 37歳(中厄)	昭和 49年生(生) 38歳(小厄)
昭和 28年生(生) 60歳(小厄)	昭和 27年生(生) 61歳	昭和 26年生(生) 62歳(小厄)

桂佐ん吉さん落語会

今月の二月八日(水)の午後七時頃から、茶屋町の御旅社で人間国宝、桂米朝さんのお弟子さんの桂佐ん吉さんの落語会が茶屋町の御旅社であります。(開場は午後六時三十分)

- ・一回目 午後七時から
- ・二回目 午後七時四十分から
- ・三回目 午後八時二十分から

一回券五百円、二回券九百円、三回通し(一千二百円)お席は自由席(五十席、満席になり次第〆切)

詳細は米朝事務所までお問い合わせ下さい。
米朝事務所 〇六一六三六五八二八一

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

